

# 第3回大学地域連携強化プラン懇話会

## 草津版アーバンデザインセンター (UDC) の概要 (案) について

1

平成28年2月12日

草津市総合政策部草津未来研究所

# 全体の流れ

草津版UDCの組織形態・運営体制

2

草津版UDC実施プログラムの検討

10

スケジュール

22

(参考) UDCKヒアリング報告

25

(参考) 未来創造セミナー実績

32

## 草津版UDCが目指す組織（案）

- 市民、大学、民間の自由な発想でまちづくりに寄与するため、可能な限り構成団体の独立性を確保し、新たな活動の可能性を引き出せる組織であること
  - 緩やかな連携のもと、各構成団体が自由に活動しつつ、同時に協働の取組みによる成果を発信していく
- 多様な活動資金が獲得できる組織であること
  - 国や県に働きかけ、助成金や補助金の獲得できるよう、社団法人を設立する。
- 将来的には湖南地域をフィールドにしたアーバンデザインセンター・ネットワークの核となる組織であること
  - 環びわこ大学・地域コンソーシアム等と連携し、草津版UDCの取組みを滋賀県全域に情報発信していく

# 他UDCの組織形態

	<b>UDCK</b> (柏の葉アーバンデザインセンター)	<b>UDCM</b> (松山アーバンデザインセンター)	<b>UDCIC</b> (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
地域	千葉県柏市柏の葉地域	愛媛県松山市	福岡市香椎照葉アイランドシティ
設立年月	2006年10月	2012年10月	2014年4月
組織形態	任意団体 柏の葉アーバンデザインセンター + 一般社団法人 柏の葉アーバンデザインセンター	松山市都市再生協議会 (任意団体) (事務局：松山市都市デザイン課)	アーバンデザイン協議会 (任意団体) (事務局：福岡市港湾局)
公	柏市 (協力：千葉県他)	松山市	福岡市
民	三井不動産(株) 首都圏新都市鉄道(株) 田中地域ふるさと協議会	松山商工会議所 伊予鉄道(株) (株)まちづくり松山	照葉校区各種団体協議会 立地企業等連絡協議会
学	東京大学 千葉大学	愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学 松山東雲女子大学、(東京大学)	九州大学、九州産業大学 福岡女子大学、福岡工業大学
スタッフ	常駐スタッフ8名 受付1名 事務1名	常駐3名 非常駐6名	常駐4名
施設	東京大学社会連携拠点内 (事務所スペース分負担)	空き店舗を市が賃貸 改修費、家賃等は市が負担	市契約の民間企業本社ビル1階に テナント入居

# 他UDCの運営形態

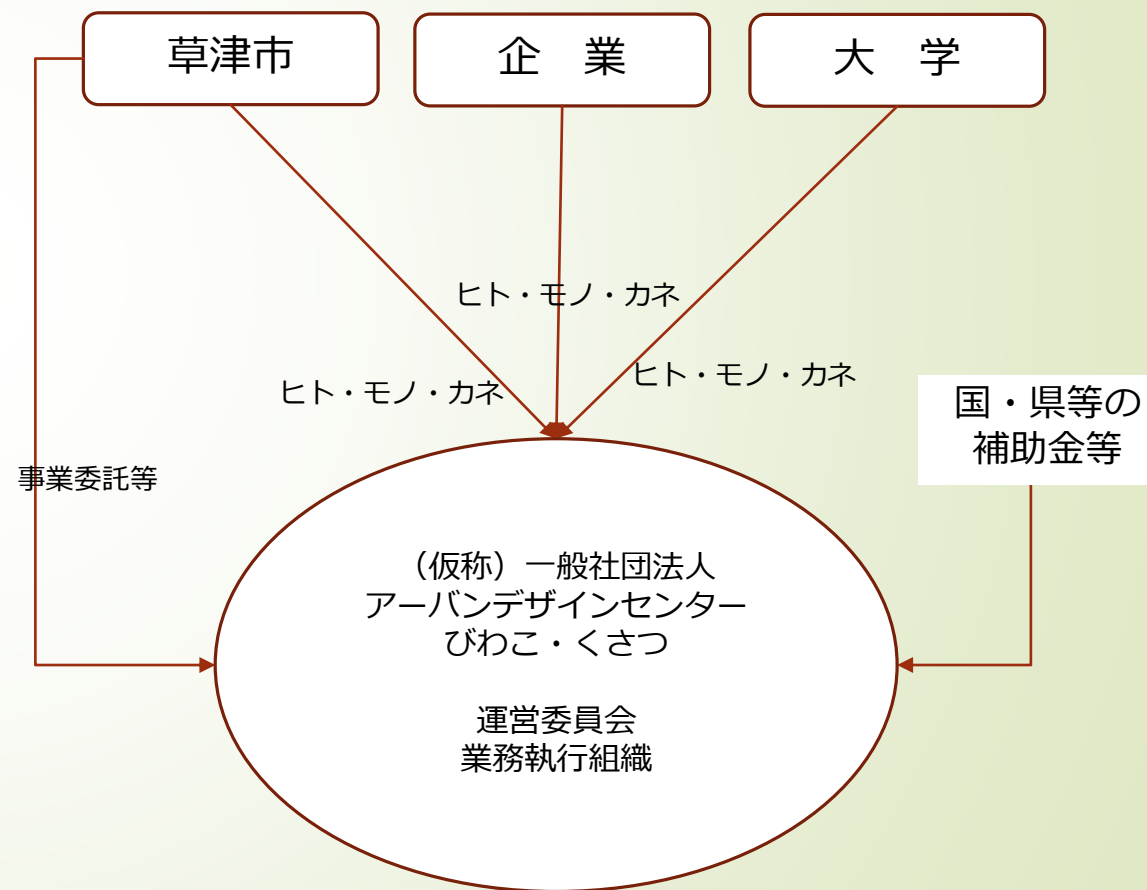
	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
資金の流れ	<p>市等 民間 大学 分担金等 分担金等 分担金等 任意団体 国の補助金等 一般社団法人</p>	<p>市 民間 大学 分担金 任意団体 寄付金 愛媛大学</p>	<p>市 民間 大学 分担金 任意団体 業務委託 (株)産学連携機構九州</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初は任意団体柏の葉アーバンデザインセンターとしてスタート。</li> <li>アーバンデザインセンター業務に必要な施設や物品に係る経費、運営に係る人件費、プログラム等の経費は、構成団体が持ち寄り（共同負担）。</li> <li>国などの補助金を獲得するため、社団法人化を設立</li> <li>場所は、東京大学フューチャーセンターにテナント入居、事務所スペース分はUDCK負担、オープンスペースは東大負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体松山市都市再生協議会（事務局：松山市都市デザイン課）を設立</li> <li>松山市から協議会に対して分担金を支払い、協議会から愛媛大学の寄付</li> <li>愛媛大学防災情報研究センターが寄附講座としてアーバンデザインセンターを運営</li> <li>場所は商店街の空き店舗利用。賃借料、改修費は松山市負担。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体であるアイランドシティ・アーバンデザインセンター協議会（事務局・福岡市港湾局）を設立</li> <li>福岡市の協議会運営負担金から、(株)産学連携機構九州にアーバンデザインセンター運営業務を委託</li> <li>* (株)産学連携機構九州は九州大学が100%出資する株式会社です。</li> <li>場所は、福岡市が契約し賃貸料を負担。</li> </ul>

## (参考) 組織形態の比較

	任意団体	一般社団法人	一般財団法人	NPO法人
設立にかかる期間	法的手続きなし	書類作成から登記まで 約2～3週間	書類作成から登記まで 約2～3週間	書類作成から登記まで 約5か月
書類作成の難易度	法的手続きなし	登記関係書類のみ	登記関係書類のみ	「設立趣旨書」「事業計画書」「収支予算書」等必要
設立に必要な構成員の数	法的手続きなし	2人以上	1人でも可	10人以上
構成員の入会制限	法的手続きなし	可	可	不可
構成員の議決権の数	法的手続きなし	定款で定める	-	一人一票
設立に必要な役員等の数	法的手続きなし	理事3名以上 監事1名以上 合計4名必要	理事1名だけでも設立可	理事3名以上 監事1名以上 評議員3名以上 合計7名必要
設立に必要な財産等の額	法的手続きなし	0円	300万円以上	0円
設立手続きに必要な経費	法的手続きなし	約12万円	約12万円	0円（収入印紙代免除）
所轄庁への報告義務	法的手続きなし	無し	無し	有り
税制優遇	法的手続きなし	非営利型・共益型の場合、有り 法人税の免除	非営利型・共益型の場合、有り 法人税の免除	法人税の免除、法人住民税の減免
その他	法的手続きなし	公益法人に移行可能	公益法人に移行可能	-

# 草津版UDCの運営イメージ（案）

- （仮称）一般社団法人アーバンデザインセンターびわこ・くさつを設置し、運営方針等を決議する。
- 社団法人構成団体より活動に必要な施設や物品、人員を持ち寄り、アーバンデザインセンターびわこ・くさつを運営する。
- プログラムごとに協力団体を構成する。
- 市等の業務受託、各種助成金・補助金の獲得を目指す。





# 草津版UDCの運営体制（案）

## アーバンデザインセンターびわこ（仮称）

（監理運営） 運営委員会

（執行組織） = 連携のコア

委員長  
副委員長

委員

計  
15名

### 構成団体

- まちづくり協議会連合会（1名）
- 草津商工会議所（1名）
- パナソニック アプライアンス社（1名）
- 滋賀銀行（1名）
- 中間支援NPO（1名）

民

- 立命館大学等（4名）

学

- 草津市（1名）
- 草津市コミュニティ事業団（1名）

公

センター長

各プログラムを統括し、全体のアーバンデザインについて指示調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門的観点から指導・助言を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、スポーツ、産業技術等、各担当における企画・調整・連携を図りながら、事業執行を担う。

ディレクター

各プログラム（セミナー、ワークショップ、社会実験等）



# 草津版UDCの将来構想（案）

	平成28年10月	平成29年4月	平成32年4月	将来構想
活動地域	南草津駅周辺	南草津駅周辺	草津市内全域	湖南地域
設立年月	2016年10月	2017年4月		
組織形態	任意団体	一般社団法人	一般社団法人	一般社団法人
公	草津市	草津市	草津市、滋賀県	草津市、周辺市、滋賀県
民	パナソニック社 滋賀銀行 草津商工会議所 草津市コミュニティ事業団 まちづくり協議会	+a	+a	+a
学	立命館大学、滋賀大学、 京都橘大学、成安造形大学 滋賀県立大学	+ 龍谷大学等	+a	+a
スタッフ	市職員1名 非常駐2名 事務1名	常駐2名（市職員含む） 非常駐4名 事務1名	常駐4名（市職員含む） 非常駐6名 事務1名	常駐6名（市職員含む） 非常駐4名 受付1名 事務1名
施設	仮事務所として 市の既存施設活用	市からUDC業務を委託 場所などは市から貸与	南草津駅前に拠点建設 （他機能併設）	周辺市等にサテライト

# 全体の流れ

草津版UDCの組織形態・運営体制

2

草津版UDC実施プログラムの検討

10

スケジュール

22

(参考) UDCKヒアリング報告

25

(参考) 未来創造セミナー実績

32

# 草津版UDCの目的

- 地域を知り、お互いを知ること
  - 過去の庶民の暮らしの工夫や知恵を再発見すること
  - 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握すること
  - 個別の課題群を構造化し、複合化した課題として認識すること
  - 活動を通じてお互いを知り合うこと
- 未来のまちのイメージを共有すること
  - 中長期的な視点を獲得すること
  - バックカスティングにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にすること
  - ステークホルダー間の利害を調整すること
- 新たな活動を創出すること
  - 新たな活動の可能性を見出すこと
  - 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援すること
  - 指標等を参照しながら、互いの活動を適宜調整すること

## UDCの役割

地域を知り、お互いを知り、みんなで話し合っ、未来のイメージから現在の課題を見つけ、その課題を解決する活動を産みだすことを支援する。

地域を知る  
互いを知る

- (学習・交流)  
地域を知るためのワークショップやまちあるき  
(調査研究)
- ・各種統計データ等の収集
  - ・市政等の説明、解説、市民意識調査
  - ・課題の抽出・構造化

未来の  
イメージの  
共有

- (学習・交流)
- ・未来のまちを考えるワークショップ
    - ・ワールド・カフェ、シナリオ・ワークショップ、コンセンサス会議 等
  - (調査研究)
  - ・合意形成プロセスの研究など

新たな  
活動の創出

- (社会実験)
- ・ワークショップ等の提案を実施  
(調査研究)
  - ・市民活動に関する調査研究など

## 草津版UDCの目的

- ▶ 連携・交流の場の提供
  - ▶ 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
  - ▶ 子育て世代および女性の活躍の場の提供
- ▶ 市民主役の萌芽的活動の支援
  - ▶ 市民主役の萌芽的活動を支援（社会実験）し、既存支援活動体に切れ目なく接続
- ▶ まちづくりに関する情報発信
  - ▶ 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- ▶ 女性の参画
  - ▶ 政策決定プロセスへの女性の意見、及び参画

UDCが有効に機能するための条件ですが、同時に、これらは草津市の課題でもあります。草津市の課題解決にUDCの活動は重要な貢献を行いますが、UDCを進めていくことが草津市の課題解決にも繋がると考えます。

# 草津版UDCの実施プログラム（案）1/2

	地域を知り、互いを知る	未来のイメージを共有する	活動を産む
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会</li> <li>・市政等説明会</li> <li>・地域探検ツアー</li> <li>・個人史会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ</li> <li>・未来のジオラマづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーバンデザインスクール</li> <li>・アーバンデザイン研究会</li> </ul>
大学、企業、市民による各種セミナー、イベントの実施			
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーバンデザインに関する調査研究 (例)</li> <li>・人口動態を反映した未来のシミュレーション</li> <li>・ワンルームマンションの空き部屋活用策の検討</li> <li>・市民を対象としたアーバンデザインに関するアンケート調査・グループインタビュー</li> </ul>		
社会実験	<p>「アーバンデザイン」、「食と農」、「健康」、「子育て」、「産業振興」の5テーマについての産学公民連携の提案に対して、助成、及び支援を行う。</p>		
市民、企業、大学提案による社会実験			

# 草津版UDCの実施プログラム（案） 2/2

	地域を知り、互いを知る	未来のイメージを共有する	活動を産む
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 （・ 拠点施設自体が街中の目立つところであり、ガラス張りで内部の活動が見える。また地域の情報ステーション的な役割を担う）</li> </ul>		
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観形成の方向性を共有し、都市計画部と連携して地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導を行う。</li> </ul>		
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習・交流」「社会実験」等を通じ、様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、持続的な活動になった時点で、まちづくり協働部、まちづくり協議会、商工会議所等と連携して切れ目なく繋がるプラットフォーム機能を提供する。</li> </ul>		

# 調査研究（案）

- UDC構成団体による自由な調査研究
- UDCをリサーチ拠点として活用
- 検討結果等について市民と意見交換

## ▶ オープンデータ利活用手法の調査研究

- ▶ 市所有情報のオープンデータ化に呼応し、オープンデータをまちづくりに活かすための手法を検討
- ▶ アイデアソン、ハッカソンの実施
- ▶ スマートデバイスを利用した地域情報の収集手法の検討

## ▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討

- ▶ 空きワンルームマンションの実態調査
- ▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討

## ▶ 都市デザインスタジオ

- ▶ 学生の自由な発想のもと、未来の草津の都市デザインについて調査研究



# 交流・学習（案）

- ▶ 「地域を知る、お互いを知る」をテーマに草津市で活躍する様々な人々の紹介と交流会を開催する。



女性による  
草津への夢

草津市在住・在勤の女性に草津への夢を語っていただく。

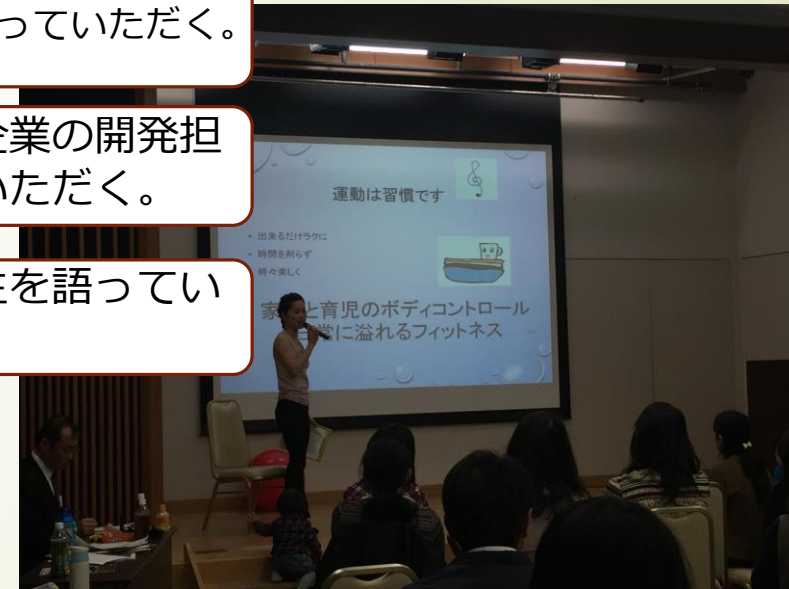
私の仕事

草津市在勤の人々（大学の研究者や企業の開発担当等）に自分の仕事について語っていただく。

草津な人

草津で生まれ、草津で育った人に半生を語っていただく。

資料作成支援  
プレゼン支援



- ▶ **アーバンデザインスクール（学習中心）**

- ▶ 草津の未来を創造するために必要な知識を学ぶ。
- ▶ 4～6回のシリーズ
- ▶ 参加者の中から、ファシリテータ等を依頼していく。

# 社会実験（案）

- ▶ 包括協定締結大学を対象とした「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」をテーマにした社会実験の委託事業
  - ▶ 5事業の実施予定（一件あたり40～50万円を想定）
  - ▶ 1大学1事業を原則とし、学内で選考
- ▶ 委託条件
  - ▶ UDCを活用した社会実験とすること
  - ▶ 市民、または市民グループの参画に努めること。
  - ▶ キックオフ、中間報告、最終報告の3回、市民を対象とした報告会を開催すること



# 大学、企業等の独自プログラム（案）

- ▶ 大学の独自プログラム
  - ▶ 市民を対象とした各種イベント
  - ▶ 学生団体による各種イベント
- ▶ 企業の独自プログラム
  - ▶ 新商品・サービス等のモニター調査
  - ▶ 市民を対象とした各種イベント



# 全体の流れ

草津版UDCの組織形態・運営体制

2

草津版UDC実施プログラムの検討

10

**スケジュール**

22

(参考) UDCKヒアリング報告

25

(参考) 未来創造セミナー実績

32

# 草津版UDC開設・運営に向けたスケジュール（案）

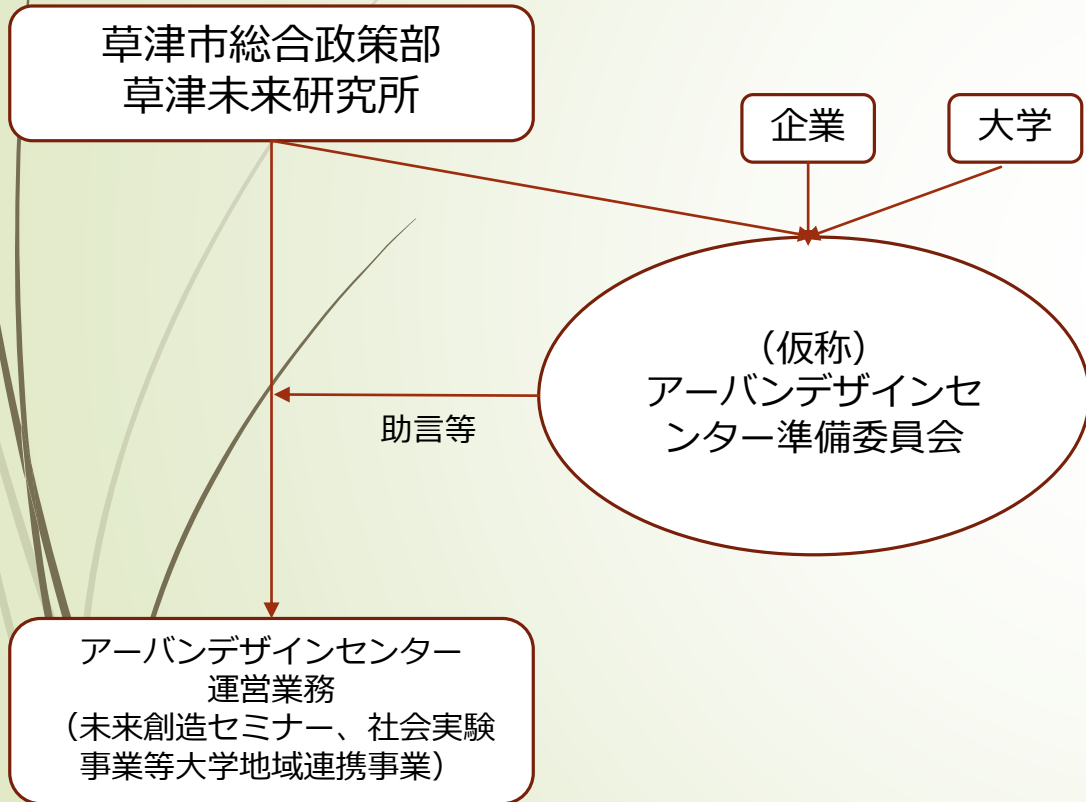
- 市民、大学、民間の自由な発想でまちづくりを行うため、可能な限り市の関与を弱め、新たな活動の可能性を引き出せる組織であること

- 一般社団法人として草津版アーバンデザインセンターを設立・運営する。
- 来年度は市の事業（未来研究所の機能の一部移転）として始める。
- 平成29年度より一般社団法人として市から独立する。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業	UDC事業			
運営	開設準備	市が運営	社団法人として運営	

# 草津版UDCの運営イメージ（案）

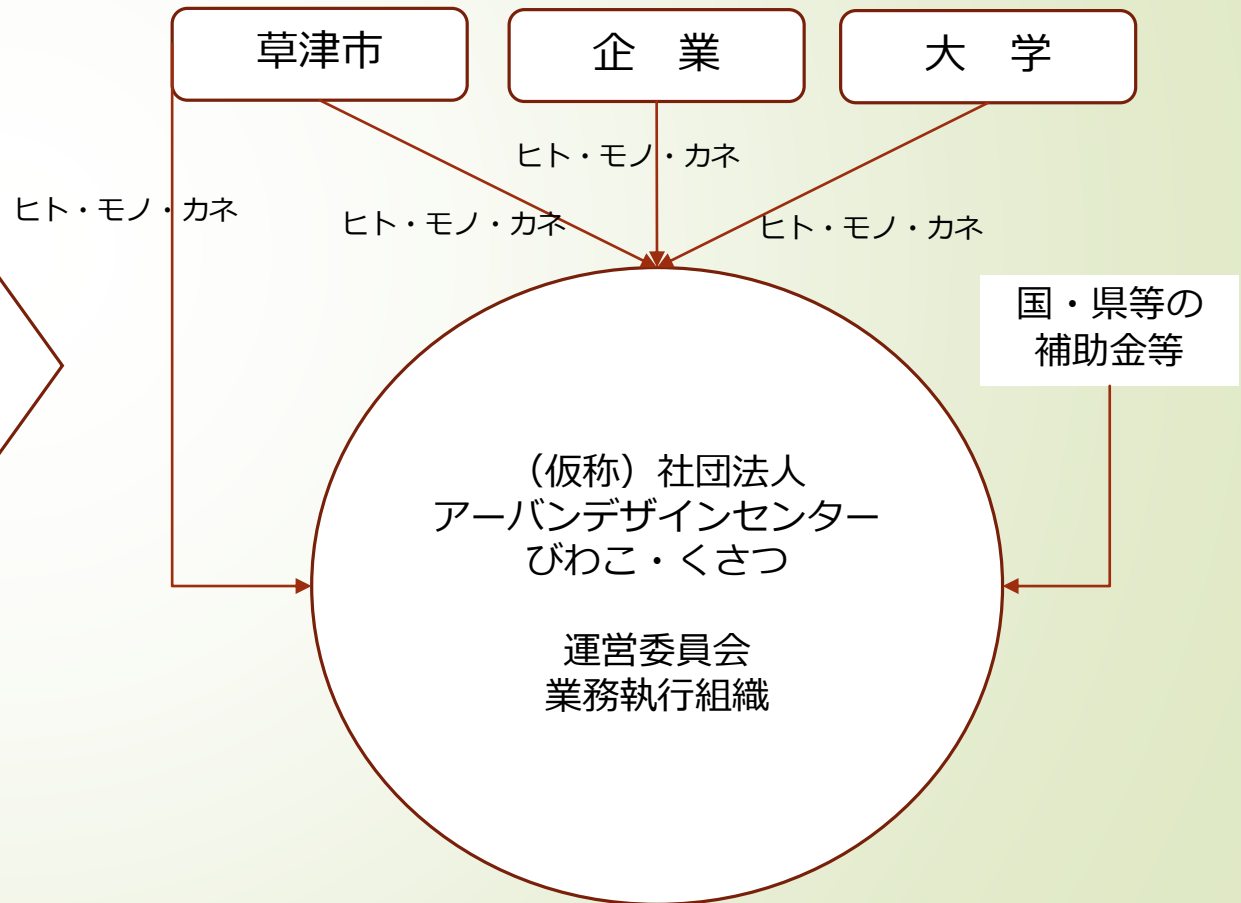
平成28年度（10月から）



未来研究所南草津分室（仮称）

平成29年度

拠点については市の施設  
(市の貸与含む) を利用





# 全体の流れ

草津版UDCの組織形態・運営体制

2

草津版UDC実施プログラムの検討

10

スケジュール

22

(参考) UDCKヒアリング報告

25

(参考) 未来創造セミナー実績

32

# UDCKについて

## ① UDCKの役割

### ▶ UDCKの役割

#### ▶ アーバンデザインの推進

- ▶ 柏の葉キャンパス駅前のまち開きとともに、行政やデベロッパー、大学等で高質で魅力的な空間デザインを推進するためにUDCKを設立。

#### ▶ 次世代モデル都市に向けた先進プロジェクトの推進

- ▶ 公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市を実現するため、独自に「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を策定。
- ▶ 「柏の葉国際キャンパスタウン計画」の8つの目標を実現するための社会実験等様々な活動の実現に向け、公民学の連携・調整を担う。

# UDCK

## ② プログラムの原則

- ▶ 質の高い都市空間デザインに寄与すること
  - ▶ エリア内における開発については、公共・民間問わず、計画等について協議すること
- ▶ 柏の葉国際キャンパスタウン構想実現に資する活動であること
  - ▶ 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の8つの目標のうち、必ず1つ以上に関連すること
- ▶ UDCK運営委員会の構成団体が関与していること
  - ▶ 構成団体の提案に対し、運営委員会で8つの目標に合致しているか判断し決定
  - ▶ 各構成団体が提案したプログラムを実施するために必要な経費は構成団体で協議のうえ負担方法を決定すること

# UDCKについて

## ③ UDCKの強み

- ▶ キャンパスタウン構想があること
  - ▶ 活動の指針となるキャンパスタウン構想が存在しており、活動の目標が明確である。
- ▶ アーバンデザインの専門家が常駐し、且つ大学の都市デザイン研究室と連携していること
  - ▶ 常に専門家が常駐しており、まちづくりにかかわる多様なニーズに即応できる体制が常時確保されている。
- ▶ 駅からすぐであり、建物だけでなく、周囲を含めて利活用できること。
  - ▶ 扉を解放すると自由に利活用できる空間があるため、周囲と連携しやすく、活動の幅が広がる。



# UDCKについて

## ④ 運営の課題

- ▶ 市民活動のサポート機能
- ▶ サードプレイス機能
  - ▶ 柏の葉キャンパスタウンのアーバンデザインを推進するための公民学連携のプラットフォームであり、原則構成団体や協力団体が利用。
  - ▶ まち開き当時は市民活動団体等がなく、UDCKがイベントやセミナーを開催
  - ▶ 10年が経ち、地域の市民活動団体も育ち、多様な活動団体が自由に使えるサードプレイス機能を求められているが、現在でも1日2件以上のミーティング（構成団体等の利用）があり、サードプレイス化は難しい状況。
  - ▶ UDCKが実施したイベントやセミナーから生まれた活動を支援する仕組みがない。
  - ▶ 地域の間接支援NPOである「NPO支援センターちば」など、UDCK以外の機関や施設との役割分担の整理がこれからの課題



# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ①

(学習・交流)

- ▶ まちづくりスクール
  - ▶ 柏市まちづくり公社主催
  - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
  - ▶ 前期・後期 2回開講 全5回の連続講座 メンバー固定 有料(3000円)
  
- ▶ 千葉大学 柏の葉カレッジリング・プログラム
  - ▶ 千葉大学が提供するプログラム
  - ▶ 「健康」「農」「食」にかかわる複数コース(2コース~3コース)
  - ▶ 前期・後期 2回開講

# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ②

- ▶ まちの交流会 Kサロン
  - ▶ UDCK主催
  - ▶ ゲストスピーカーを招き、交流
  - ▶ 月1回 予約不要 有料(1000円) 差し入れ持込み自由 予約不要
- ▶ その他エリア内各種イベントの主催、共催、参加等

(調査研究)

- ▶ 都市環境デザインスタジオ
  - ▶ 東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の4大学共同の講座
  - ▶ 各大学の学生(大学院生)が履修
  - ▶ 柏の葉キャンパスエリアをフィールドにした都市デザイン演習
  - ▶ 講評会をUDCKで行い、市民等と対話



# 全体の流れ

草津版UDCの組織形態・運営体制

2

草津版UDC実施プログラムの検討

10

スケジュール

22

(参考) UDCKヒアリング報告

25

(参考) 未来創造セミナー実績

32

# 未来創造セミナーの開催

- 過去の調査研究の提言を踏まえ、「気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場、及び「地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）」を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバンデザイン	文化	健康	大学地域連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市計画課	未来研究所	未来研究所	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京樂真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	木下達文 (京都橘大学)	岡本直輝 (立命館大学)	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年 7月30日 14:00～16:30	平成27年 8月25日 14:00～16:30	平成27年 11月5日 18:00～20:00	平成27年 12月3日 18:15～20:15	平成28年 1月26日 10:00～12:00	平成28年 3月26日 10:00～12:00
場所	市民交流プラザ（南草津駅前）					

# 参加者属性

## (1) 属性別参加状況

属性	人数					
	合計	1	2	3	4	5
市民	109	15	21	16	15	40
学生	11	0	0	10	1	0
企業	7	2	0	2	1	2
大学	5	1	1	0	2	1
職員	26	6	10	4	4	4
合計	158	24	32	32	23	47
定員	140	30	30	30	20	30
率	113	80	107	107	115	157

## (2) 性別参加状況

性別	人数					
	合計	1	2	3	4	5
男	48	4	5	14	14	11
女	110	20	27	18	9	36
その他	0	0	0	0	0	0
合計	158	24	32	32	23	47

## (3) 年代別参加状況

年代	人数					
	合計	1	2	3	4	5
10代	0	0	0	0	0	0
20代	10	1	0	8	1	0
30代	14	4	1	4	1	4
40代	22	3	8	3	2	6
50代	16	5	1	4	6	0
60代	4	0	1	0	3	0
70代	3	0	0	0	0	3
不明	89	11	21	13	10	34
合計	158	24	32	32	23	47

- \* 1回目は試験中、2回目は夏季休暇中のため、学生の参加なし
- \* 企業については就業時間中であること、テーマ的に関心が無かったことが影響。
- \* 大学は1回目は立命館大学職員、2回目は京都橘大学職員
- \* 第1、2、3、5回の募集定員は30名、第4回は20名

## アンケート集計結果

問い	非常に有意義		有意義		まあまあ		物足りない		非常に物足りない		合計	
1. 運営等全般	3	4	4	5	1	0	0	1	0	9	0	15
												16
												24
												15
												20
2. セミナーの内容	3	3	4	9	8	0	0	0	0	9	0	15
												16
												24
												15
												20

時間が短い

問い	大いに活かせる		いくらか活かせる		ほとんど活かさない		(わからない)		合計		
3. 今後の活動	4	0	4	5	2	3	0	0	9	0	15
											16
											24
											15
											20

合計	第1回
	第2回
	第3回
	第4回
	第5回